



テーマ 人口減少時代の日本の選択—移民受け入れをどう考えるか

毛受 敏浩^{めんじょ} ((公財)日本国際交流センター 執行理事)

少子高齢化と同時並行で人口減少が続く中で政府は、高齢者と女性の活用で対応可能としてきた。しかし、それだけで本当に大丈夫かという懸念の声が日増しに強まっている。

客観的に見れば、高齢者、女性に対する過度の期待は裏切られる可能性が高い。だれが増加を続ける高齢者の面倒を見るのかについて政府の見解は出されていない。

危うい技能実習制度

労働力が逼迫する状況の中で政府は技能実習生の拡大を決めた。この制度はいくつかの点で大きな矛盾を抱えている。国際協力を謳いながら実態として低賃金労働者を確保するという制度は、海外から見ればダブルスタンダードと指摘されかねない。過重労働や賃金未払いなどさまざまな問題も指摘されている。

ゴーストタウン化する地方都市

2050年には国土の6割が無人になるという。日本の地方都市の崩壊が始まっている。大都市を除いて日本全体がゴーストタウン化する危機に瀕している。外国人の受け入れの是非を議論するのではなく、どのような受け入れが日本にとって最小のリスクで最大の利益をもたらすかを考えるべき時機に来ている。

犯罪は増えるか？

移民の受け入れについて犯罪が増えることについての懸念の声が大きい。しかし、来日外国人が増加傾向にある一方で、2005年をピークとして外国人犯罪は半数程度にまで減少している。「世界中で移民受け入れは失敗している」といった議論もある。先進国はどの国も、移民を受け入れることなくしては国の活力は保てないと、果敢に挑戦をしており、移民受け入れを全面的にやめようという国はない。

受け入れ後のビジョン「多文化パワー社会」

日本として「多文化パワー社会」を目指すべきである。受け入れた外国人と日本人の間でウィンウィンの関係が成立する。現在、日本に住む多くの外国人は地域社会に溶け込み、それぞれの立場で日本社会に貢献をしている。これから加速度的に人口減少が進む日本。外国人をどう受け入れ、かれらとどのようにウィンウィンの関係を築いていけるかが、日本の将来のカギを握るといっても過言ではない。